

■ 現況建築物の色彩分析 色彩の傾向把握

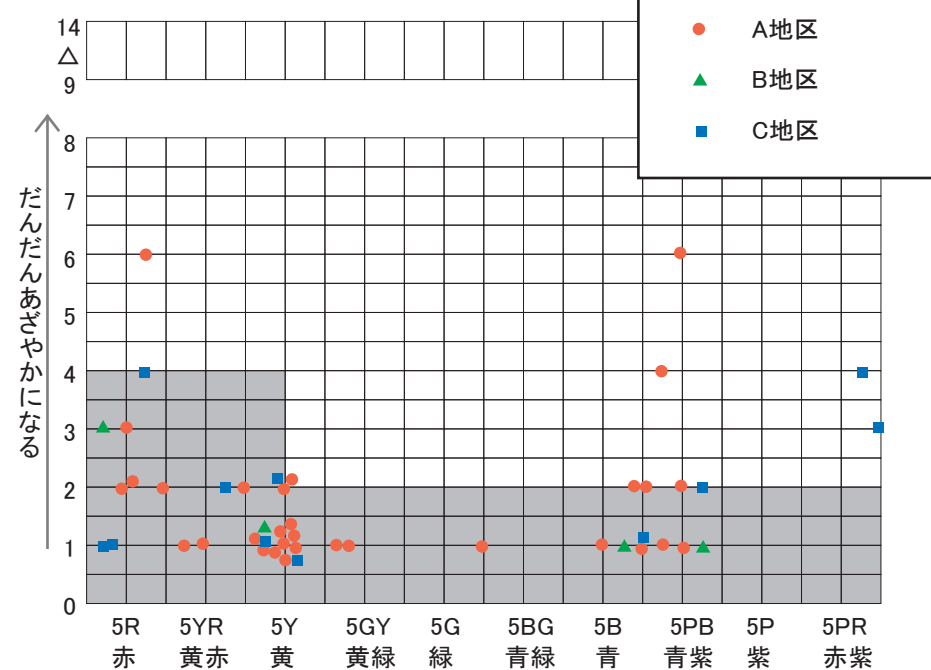
■ 淡い暖色系(茶色系)の色彩

下表に示すように、国道134号以南の建物の多くは、淡い暖色系(茶色系)の色彩が圧倒的に多いことが分かる。この色彩は日本の伝統的な木材や左官材料による色彩である。傾向としては、淡い暖色系(茶色系)はA地区に多く分布している。またB地区には白色(無彩色)が多い。

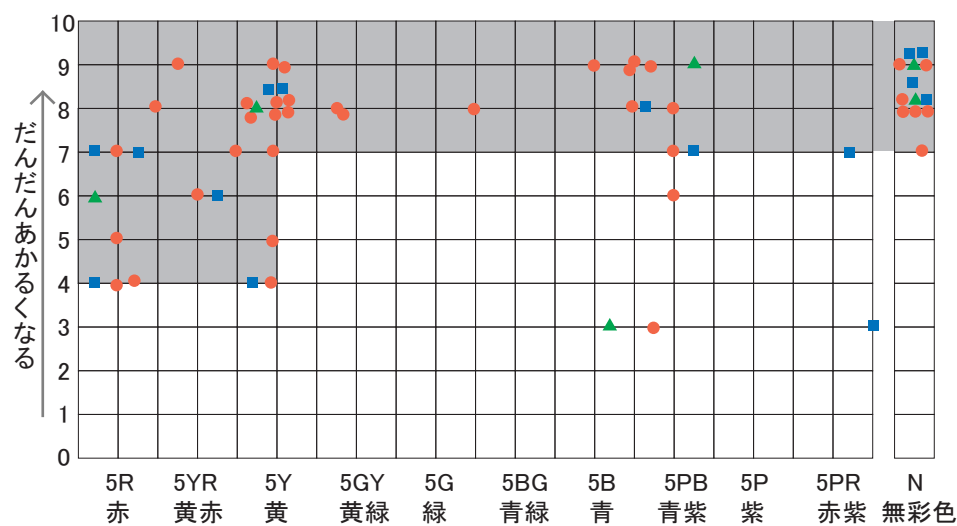
国道134号以南では、この2つを中心とした建物色彩で景観がつくられており、落ち着いたまち並みが形成されている。

まだ少数であるが、一部で色の強い建物もあり、特にC地区では隣り合う建物同士の色彩の差が大きく、乱雑な印象を与えている。

■ 現況建物(壁)色彩 彩度の分布



■ 現況建物(壁)色彩 明度の分布



■ 大切にすべき色彩

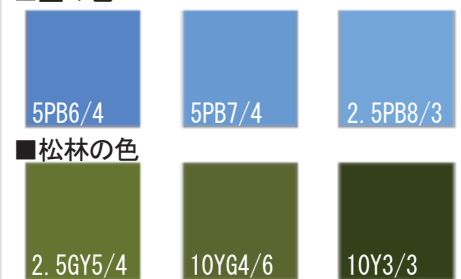
■ 地域性を表す自然がつくる色彩

グランドプラン対象地区は、茅ヶ崎海岸全体を代表する場所であり、開放性の相模湾の地形的特徴がつくる広い海や空、ゆるやかな起伏の砂丘と植物、遠くに青く霞む山々、延々と続く松林の緑、などの自然環境が景観的魅力となっています。

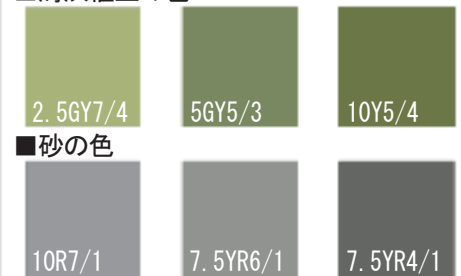
これらの魅力的な景観を構成する色彩は以下のように構成されています。これらの色彩を大切にすることは茅ヶ崎海岸の景観を保全する1つの手法であると考えられます。



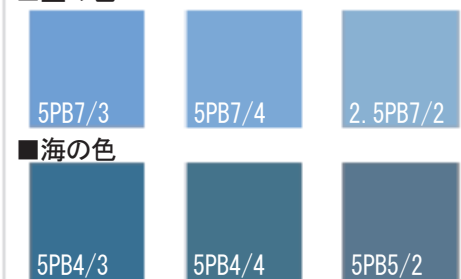
■ 空の色



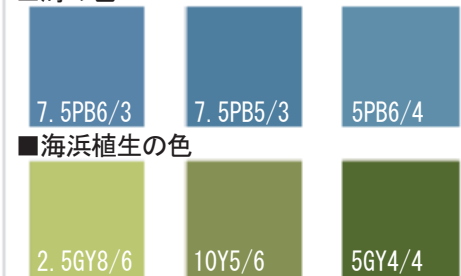
■ 海浜植生の色



■ 空の色



■ 海の色



■ 大切にすべき色彩を保全するための色彩制限の考え方

■ 自然が主役。人工構造物は自然色彩より目立たない色彩使う。

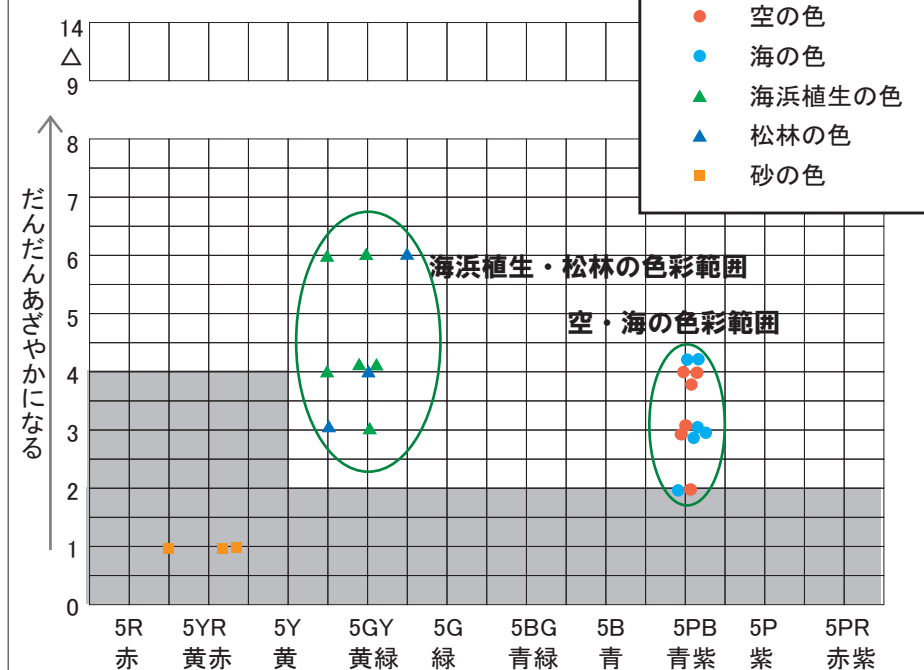
海辺の景観の主役である海・空・緑等の自然の色彩は、季節や天候等により常に変化しており、その変化が自然をより一層魅力的なものにしています。

これらの微妙な変化を活かすために、下表に示すように自然がつくる色彩の変化に対して、人工構造物の色彩は、色が薄く(淡く)、同じ色相を使わないことが大切です。

この原理は、海浜の自然がつくる色彩からも学ぶことができます。海・空・緑等の主役の色彩に対して、脇役となる砂浜の色彩は淡い色彩となっており、主役が寒色系(青・緑系統)であるのに対し、脇役は暖色系(茶色系)となっています。

人工構造物の色彩は、下表中の  印の範囲から選ぶことが大切です。

■ 自然の色彩 彩度の分布



■ 自然の色彩 明度の分布

